日本留学試験対策

記述問題テーマ100

［完成編］
記述問題から
小論文・志望理由まで

中級後半から

［著者］
松岡龍美

BONJINSHA にほんごの凡人社

日本留学試験対策

記述問題テーマ100

［完成編］

記述問題から
小論文・志望理由まで

中級後半から

［著者］
松岡龍美

にほんごの凡人社
BONJINSHA

はじめに

2010年6月より、「日本留学試験」が改定されました。
その大きな特徴は、「読解」の比重が大きくなったことと、「記述問題」が高度になったことです。
「記述問題」の新しい採点基準では、以前のように初級の学生が満点を取ることは不可能になりました。また、出題内容も「より論理性を問う」ものとなっていて、大学入試の小論文に近い内容となっています。

そこで、私たちは、2段階の対策を立てることにしました。

①まず、初級後半・中級前半の学生が『日本留学試験対策　記述問題テーマ100［改訂版］【基礎編】』を使用して、30分で400字～500字を4段落～5段落構成で書けるようになること。

②次に、中級後半以上の学生が本書（【完成編】）を使用して、30分で500字を5段落構成以上で書けるようになり、さらに、800字の小論文が書けるようになること。

以上、2段階の目標を設定することで、大学進学という最終目標に向けての作文学習ができると考えました。

本書（【完成編】）によって、さまざまな社会問題について、客観的な知識を基に自分の意見を述べ、論理的な説明ができるようになってほしいと思います。
学習者の皆さんが、自分の意見を論理的に展開できるようになることで、日本語学習の最終目標を達成できますよう、心から願っております。

2010年6月　著者

※旧日本語能力試験出題基準で2級以上とされている語彙については、ページの初出にルビをつけてあります。
（第1部STEP4の解答例と別冊解答例では、作文ごとにルビをつけてあります。第2部STEP4のうち、実際に大学入試問題として出題されたものについては、原文に従い、ルビをつけていません。）

目次

はじめに　i

第1部　記述問題　1

STEP1　日本留学試験「記述問題」を知る！

記述問題の変更について

1 時間・字数　3
2 出題内容　3
3 採点基準　3

STEP2　50点を取るための五つのポイント

五つのポイントを知る

1 課題　6
　(1) 二つの意見　6
　(2) 一つの意見　7
　(3) 将来の予測　7
2 主張　8
3 根拠　9
4 構成　10
5 表現（洗練された表現）　11

解答例を見てみる

1 二つの意見　14
2 一つの意見　15
3 将来の予測　16

STEP3　学生の解答例と添削

STEP4　記述問題「テーマ100」＆解答例

1 二つの意見（1～30）　26
2 一つの意見（31～65）　41
3 将来の予測（66～100）　59

第2部　小論文 …… 79

STEP1 記述問題から小論文へ

1 小論文とは？ 80
2 小論文の構成：400字から800字へ 81

STEP2 本文要約

1 下線を引く 83
2 文を短くする 89
(1) 言葉を削る 89
(2) 簡単な言葉に置き換える 90
(3) 二文を一文にする 91
(4) 長い文を分ける 92

STEP3 小論文の書き方

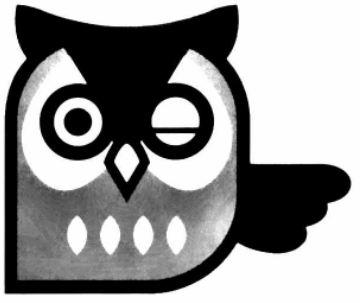
1 事実関係、問題点、原因の書き方 95
2 解決策の書き方 98

STEP4 実践問題・大学入試過去問題

1 環境問題 103
2 国際化・グローバル化 104
3 少子高齢社会・人口減少問題 108
4 そのほかのテーマ 110

第3部　志望理由 …… 119

(別冊：解答例)



第1部 記述問題

STEP1 日本留学試験「記述問題」を知る！

2002年から始まった日本留学試験には、「書く能力」を問う試験があります。それが「記述問題」です。
この問題の成績と答案は、受験者が志望する大学に通知されることになっています。

そして、2010年から「採点基準・制限時間および字数」が変更されました。問題の内容も高度になり、採点基準も複雑になって、上級レベルの学生でも50点満点を取るのは難しくなりました。

ですから、記述問題対策は、3段階で考える必要があります。

①初級の段階で、[20分で400字]を目標に、
　[自分の意見　⇒　理由　⇒　例　⇒　結論]
という構成で、書く練習をする。

②次に、中級の段階で、[30分で400～500字]を目標に、
　[自分の意見　⇒　理由　⇒　説明（例）⇒　反対意見の否定　⇒　結論]
という構成で、書く練習をする。

③その上で、一つのテーマについて、[30分で500字]を目標に、
　[事実関係（問題点）⇒　原因　⇒　意見・予測　⇒　理由・説明　⇒
　反対意見の否定　⇒　結論]
という構成で、書く練習をする。

このうち、①と②は、「AとBのどちらの意見に賛成か」という問題です。①と②の段階については、『日本留学試験対策　記述問題テーマ100［改訂版］【基礎編】』を利用していただきたいと思います。

この本では、特に、③の段階の書き方を練習して、40～50点満点を取れるようになってください。

記述問題の変更について

1 時間・字数

時間は、20分から**30分**になりました。字数は、400字程度から400～**500字程度**になりました。つまり、時間的には少し余裕ができますが、字数としては増え、**400字未満は減点**になるということです。

ポイント

構成としては、

［自分の意見　⇒　理由　⇒　説明（例）⇒　反対意見の否定　⇒　結論］

という５段落構成が基本になります。特に、**［反対意見の否定］**を一つの段落として書けるかどうかが、大きなポイントになります。

2 出題内容

主に、次の三つのパターンがあります。

①「二つの意見」：＜A＞と＜B＞の、**どちらの意見に賛成か**、という問題
②「一つの意見」：**一つの意見**について理由を考え、**自分の意見・解決策**を述べる問題
③「将来の予測」：**現代社会のトピック**について原因を述べ、**未来を予測する**問題

ポイント

①と比べて、明らかに②または③の問題のほうが難しいです。①は、最初から「二つの意見」が書いてありますが、③の場合、まず、示された社会問題の原因を考え、それから、それについて、未来の予測または自分の意見を書かなければなりません。②の場合も、「一つの意見」は示されていますが、その理由を考えて、その上で、それに対する自分の意見を書かなければなりません。

3 採点基準

６点満点から**50点満点**になり、50点・45点・40点・35点・30点・25点・20点・10点・０点の**9段階**で成績がつけられます。また、レベルS・A^{+}・A^{-}・B^{+}・B^{-}・C^{+}・C^{-}・D・NAの６段階のレベルも示されます。

以前の採点基準の７段階（論理性３点＋文法３点＝６点満点）は、新基準の０～45点の８段階に相当します。